

別子銅山記念館

施設管理者 : 住友グループ
施設所在地 : 愛媛県新居浜市角野新田町
調査見学時期 : 令和元年 12 月 20 日（金）
施設概要

別子銅山は、愛媛県東部、中央構造線やや南の三波川変成帯に胚胎した層状含銅硫化鉄鉱床（キースラーガー）を採掘していた鉱山です。1691 年（元禄時代、江戸時代中期）に開坑し、最終的に 1973 年（昭和 48 年）に閉山するまで、約 65 万トンの銅を産出し、一貫して住友によって経営されてきました。別子銅山は、現在の住友グループの発展の源となり、工業都市新居浜の原点となった近代化産業遺産と言えます。

別子銅山記念館は、住友グループの礎となった別子銅山の意義を閉山後も永く後世に伝える目的で、別子銅山守護神が奉祀されている大山積神社の境内に 1975 年（昭和 50 年）に開館されたもので、一般に無料で公開されています。建物は半地下式になっており、その屋根には江戸幕府から開坑許可を得た 5 月 9 日にちなんで一面にサツキが植えられ、神社の風景に溶け込んでいます。屋外には、鉱山鉄道に使用された蒸気機関車、電気機関車の実物が展示されています。

館内は、急傾斜の鉱脈に掘削された坑道をイメージさせるように、展示階がロビーから地下へと段々と降りていく構造になっています。展示内容は、初期の住友の歴史、鉱山の歴史、鉱石標本、生活風俗、鉱山技術などとなっており、展示物を通じて事実を述べることに主眼が置かれています。特に、海拔 1200m から－1000m まで、総延長約 700km に及び掘削された鉱山の坑道模型は、鉱山に携わった人々の遠大な営みを感じさせます。

同施設は、郷土の歴史を学ぶ場としても重要な役割を果たしています。訪問した日には、近隣の中学生在が社会科見学で同施設を訪れ、展示物を見ながら熱心にメモを取っていました。なお、新居浜には別子銅山関連の産業遺産が他にも数多くあることを付記しておきます。



別子銅山記念館の外観



鉱山鉄道に使用された蒸気機関車